

大会速報

国労水戸地方本部
第72回定期大会
速報

書記長集約から

代議員からの書面を確認の上、一般経過報告、2020年度運動方針について承認された。

さらにスト権の確立について可決され、選挙管理委員から役員・地方委員の報告があった。

大会宣言が可決され、団結がんばろうで大会は閉会した。

平和と民主主義を守る闘い2020春闘について

昨年10月ひたちなか市議選「井坂章氏」、今年9月いわき市議選「狩野昭光氏」が当選した。選挙闘争は関係分会が主体になって、組合員の多大な協力の成果であった。

今後解散選挙の動きもありますが、反原発・脱原発、戦争をさせない国作りを焦点に全力を尽くしていく。

今年3月常磐線の全線開通となった。福島第一原発事故から多く学び、「雇用の確保」「労働条件の確保」「健康被害阻止」に向けて奮闘してきた。

国労水戸は、鉄道事業いわゆるJRは国民の大きなライフラインのひとつで国民の足を守る責任がある。それは企業内労働組合としての責任もある。

会社に対して労働環境・

労働条件の確保を主張し、労働組合としてのチェック機能を果たしてきた。

復旧工事対策委員会で議論を重ねながら、多くの不安を抱えながら業務を行ってきた。全体で労をねぎらっていききたい。

福島第一原発の事故を当該地本として、風化させない・広めることから国労フクシマ交流会の結集を呼びかける。

反合理化・労働条件の闘い

「職場改善要求」「ダイヤ改正に関わる要求」「事象ごとの要求」について団体交渉を基本に取り組んできた。

地本と分会そして各職協の連絡体制を密にして、要求集約と現場目線に合わせた対応をしていく。

6月に水戸線ワンマン化の提案があり、対策委員会を立ち上げ関係市町村への要請、陳情の取り組みを行っていく。

「安全・安定輸送」が私

たちの使命である。社員の労働条件の確立、利用者の安全に向けた問題点を追及していく。

エルダー組合員の雇用先労働条件について、丸投げにさせない。JRとして責任を持たせる意味を含めて、安全を脅かす外注施策に随時、要求をしていく。

JES S職場で職場からの改善を勝ち取り社員代表者という成果があった。これこそが国労運動であると感じた。

「分会運動の強化」いわゆる班・分会での「点検・摘発行動」が必要です。班集会・分会執行委員会の充実が必要です。

組織強化・拡大について

東労組の瓦解と同時に新労組の立ち上げた。同時に会社は徹底した労務管理の強化や社友会の立ち上げで労働組合不要論を作ってきた。

新採行動・対話行動をしていく上で支部・分会オルグの実施や分会全体集会への

の参加も行ってきた。

コロナの影響もあったが地本として「今の環境で何が出来るか」を各分会の状況把握や問題点の集約を行ってきた。さまざまな取り組みの結果、今年度は2名の拡大がありました。

社員代表選は組合の代表ではないが、選挙対策での組織運動、以前と代表者となつてからの行動の違いをみせつけている。

その行動から「労働組合は必要」といった声も若手プロパーから出されている。

全組合員で共通した認識にできれば組織拡大に結びつくものだと確信する。

社員代表選は今後も継続して取り組んでいく。

国労本部が示した5年ビジョンに基づき、今年度は「組織財政検討委員会」を立ち上げ、将来にむけた課題について組合員の声をベースに付託をしていく。

国労運動を継承させるため、組織強化拡大に向けた総団結・総決起を要請します。